

市民劇場「きずな」通第2回

H17年11月上旬公演予定

「^{いしずえ}礎・赤平のはじまり

やっと脚本が完成した後の先月6月20日～28日まで前回も音楽で指導をいただいた岡田京子さんは休む暇なく、曲を作るための講座を行いました。そして、きずな会員みんなで作った詩を組み合わせ、みんなで作ったイメージの旋律を曲にさせていただいて挿入歌7曲・BGM13曲が完成し、作品に命が吹き込まれました。27日の歓迎会では、食事の後に挿入歌7曲の発表と練習がありました。2時間にわたる岡田さんの熱心な指導に会員たちも真剣でした。でも、その表情は、自分たちで作詞。作曲に喜びの笑顔が輝いていました。赤平市民劇場は“きずな”では、会員を募集しています。みなさんの参加をお待ちしています。



ありがとう

支援センターラビカ「あ、の活動にご協力いただいたみなさんです。

遠山和さん、福島力夫さん
中島清さん

本当にありがとうございました。

*ここ最近のボランティア状況についてのお知らせでした。ご芳名もれの方がおりましたら、お許しいただきたいです。

ご存知ですか？ 赤平伝説



赤平附近の天地創造神と妹(妻) (アイヌ民話)

それはそれは大昔、アカピラ附近で北海道を作ったコタンカラカムイという神様が、性悪の熊に襲われ大けがをしました。

それを聞いた妹（又は妻トレイシ）が泣きながらコタンカラカムイのもとへ駆けつけました。その途中で唾を吐くと、それが白鳥になったのです。だから白鳥は今でも女の声で悲しげに泣きながら空を飛んで行くのです。

また、泣くと鼻水が出て、手ばなではなをかんで投げると、その柔らかな鼻汁があしの草となり、硬い鼻汁がおぎの花となりました。

こうしてコタンカラカムイのもとにたどりつき、傷は思ったほどひどくなく、二人は世界づくりの仕事も終わったので天に帰ることにしました。それと地上で自分たちが使用した一切の物を置いていくことにしました。その際、肌衣（モウル）を海を所有する翁（アトイコルエカシ）が投げると亀（エチンケ）となりました。

下着をなげると蛸（アッコルカムイ）になり、最後に、地に落ちた陰毛（ホヌマ）がススキ（ラペンペ）となったのです。だからススキは群がって生えるのです。

『あかびらふるさと文庫』より

【神の国の不思議なむかし話です。日常のどんな物にも命がある大切なものだよ？と言う意味に思えたり・・・、あなたにはどのように感じたでしょうか？】

その1「イヌメブチ哀歌」そらの昔話より 三三三誌第2号掲載

その2「百蛇になった少年」そらの昔話より 三三三誌第4号掲載

その3「雪女」が出た」そらの昔話より 三三三誌第5号掲載

<発行> NPO法人赤平市民活動支援センター 〒079-1136 赤平市本町3丁目1番8(赤平市公民館内) TEL・FAX 32-3888

<発行責任者・表紙> 新出 郁子(広報部チーフ) <編集者> 佐藤 智子(広報部)

E-mail: rabika@mocha.ocn.ne.jp URL: http://www12.ocn.ne.jp/~rabika/